

生き生き津高

Vol.24



三重県立津高等学校 2023. 3

生徒会執行部

「生徒会長になって」

1年 今井 隆太(津市立香海中学校)

津高校では「自主・自律」の精神のもとに有志の生徒が中心となり生徒会活動を行っています。実は津高校で行われている行事は私たち生徒会が運営しています。年間行事としては体育祭や文化祭、レク大があります。そして、ここでは生徒会メンバーのそれぞれの担当者が、どのように運営されているのかについて説明したいと思います。

「レク大担当の役割について」

1年 中川 千江(鈴鹿市立白子中学校)

生徒会執行部のレク大担当は年に二回行われるレクリエーション大会の企画、準備、運営などを中心に取り組んでいます。具体的な活動内容は、大会トーナメントの作成や競技決め、運動場や使用教室の準備、当日の審判などです。

活動期間はレク大の数ヶ月前から少しずつ準備を進め、継続的な忙しさはありませんが、大会が近づいてくると、特に前日と当日はものすごく忙しくなります。なので、基本的に他の部活との兼部などをする生徒もいますが、レク大が迫ってくると、他の部活との両立に、調節が必要になってきます。

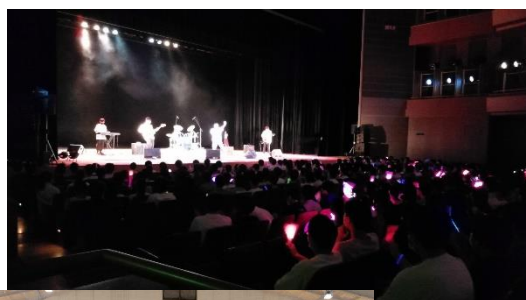
しかし、レク大担当は頑張った感や仕事をした感がよく感じられる、やりがいのある担当です。レク大当日はとても忙しくなるので、体力的にもかなり大変で疲れてしまいます。けれど、疲れた分、レク大が終わったとき、達成感も感じる事ができてとても楽しくていい経験ができます。



「文化祭担当の役割について」

1年 酒井 春日(三重大学教育学部附属中学校)

文化祭は2日間行われる津高校の一大行事です。1日は三重県総合文化センターで非公開で行われ、もう1日は本校で公開で行われます。生徒会の文化祭担当はその企画・運営を担当します。非公開の部は文化系クラブの発表、他にも教員劇や有志発表があります。2022年度の文化祭では生徒がペンライトを振るなどして、声を出しにくい時世でも、盛り上がりを見せました。一般公開の部では、各クラスの企画や、模擬店、体育館でのステージ発表などもあり、いつもとは違う校内の雰囲気を楽しめます。文化祭担当は、非公開の部のタイムテーブルの作成や、出演者との打ち合わせ、公開の部では各クラスの企画のチェックやパンフレットの作製・配布等を行います。文化祭を支える重要な役割なので、とても楽しいですし、達成感を感じる役割です。



「体育祭担当の役割について」

1年 今井 隆太(津市立香海中学校)

生徒会執行部の体育祭担当は、年に一度の体育祭の運営をしています。体育祭の競技の企画やその説明、前日の競技準備、当日の運営を私たちがしています。大掛かりな企画のため、数ヶ月にわたって担当メンバーがこの日のために準備しています。やはり体育祭はグラウンドで全校生徒が集まり、1日中開催されるので私たち体育祭担当はずっと運営を担っています。非常に疲れますが、競技が円滑に進むためと思うと頑張れます。またこれからは、ドローンなどを使い各クラスに競技状況を配信したいと考えています。需要があるかは分かりませんが、一つのロマンとして計画を進めています。全体を通してミスが許されない仕事であるため、責任はものすごくありますが、生徒会全体で協力して進行していくのが楽しいです。



「会計担当の役割について」

1年 中西 姫花(鈴鹿市立千代崎中学校)

生徒会執行部の会計担当は、主に各部が使った部費の会計報告書の管理を担当しています。具体的な活動内容としては、会計報告書に不備がないかどうかを確認し、データとして整理し、そして管理しています。

活動期間は他の担当とは違って決まっていませんが、定期的に各部活動の会計報告書を回収し、会計担当の生徒同士で協力して、仕事にあたっています。会計担当の仕事は、単純な作業が多いのですが、不備はないか、報告を間違えずに手作業でデータにできるか、など気を使わなければならない作業が多いです。そのため、生徒同士で積極的に協力し合いながら活動しています。

現在は、生徒会長の公約として、デジタル化の推進に尽力しています。その取り組みとして、生徒の意見を聞くことのできる「目安箱」や会計報告書のデジタル化を、生徒会執行部やそれ以外の生徒の力を合わせて行っています。

ボート部

【主な競技成績】

令和4年度三重県高等学校総合体育大会ボート競技(5月29日)

- ・男子シングルスカル(石井 隆行)優勝
- ・女子シングルスカル(小島 結子)優勝
- ・女子ダブルスカル(早志 瞳・ 湊 ほのみ)優勝
- ・男子舵手つきクォドルプル 第2位
- ・女子舵手つきクォドルプル 第2位

第69回東海高等学校総合体育大会ボート競技(6月19日)

- ・男子シングルスカル(石井 隆行)第3位
- ・女子ダブルスカル(早志 瞳・ 湊 ほのみ)第3位

国民体育大会第43回東海ブロック大会ボート競技(7月17日)

- ・男子シングルスカル(石井 隆行)第1位

令和4年度全国高等学校総合体育大会出場(8月10日～8月14日)

- ・男子シングルスカル(石井 隆行)
 - ・女子シングルスカル(小島 結子)
 - ・女子ダブルスカル(早志 瞳・ 湊 ほのみ)
- 第77回国民体育大会ボート競技出場

東海代表(10月1日～10月4日)

- ・男子シングルスカル(石井 隆行)



【男子シングルスカル 3年 石井 隆行(津市立橋北中学校)】

高校では珍しいボート競技というスポーツに出会い私は心身ともに成長することができました。最初は初心者だった私も全国大会という大きな舞台に立ち、とても貴重な経験ができました。この3年間で培った経験は必ず将来に生きていくと思います。

【女子シングルスカル 2年 小島 結子(多気町立勢和中学校)】

シングルスカルという種目は1人で漕ぐので、練習も試合も自分自身との闘いでした。なかなか思い通りに漕げず、きついなと感じることもありました。それでも自分らしくストイックに、そして楽しみながら漕ぐことができたからこそ、県総体で優勝し、全国大会に出場することができたのだと思います。全国大会では思うような結果を出すことは出来ませんでした。この経験を活かし、これからも努力し続けたいと思います。

【女子ダブルスカル

2年 早志 瞳(津市立白山中学校)

2年 湊 ほのみ(津市立橋北中学校) 】【

私達は、日々の練習でお互いにアドバイスし合ったり、毎日課題を見つけて改善したりして、県総体には自信を持って臨むことが出来ました。また、県総体で優勝したことや、東海総体で入賞したことによって、さらに自信をつけることが出来ました。全国大会では目標に届かず、悔しい結果に終わってしまい、全国のレベルの高さを実感しましたが、ボート部に入るまでは想像もしていなかった全国という舞台に立つことが出来たことを誇りに思います。

【活動状況】

《部員数》男子8人 女子19人(マネージャー2人)

《活動場所》岩田川艇庫 or トレーニング室

《活動日》週6日

全員、高校からボートを始め、誰もが初心者です。しかし、ボート部には補欠がないため、誰もが主役になり、活躍することができます。ボート部がある学校は三重県でも数少なく、全国大会を目指すことも夢ではありません。また、今までに経験した事の無い感覚を味わえることも魅力です。これからも仲間とともに目標に向かって頑張っていきます！



新聞・写真部

「読んでもらえる学校新聞を」

2年 榎森 良啓(鈴鹿市立神戸中学校)

全国高等学校総合文化祭の新聞部門に参加させていただきました。ほかの県の人と班を組んで、取材地をまわって新聞を作るということに、最初は上手く出来るか不安でした。役立たずだったらどうしよう、足を引っ張ったらどうしようと、そればかり考えていましたが、最終的には一つの新聞を作り上げることができて、とても安心しました。

今回参加してみて、ほかの県の新聞や新聞部について知ることができました。まず、部活動としての規模が自分たちの高校の新聞部と全く違いました。他県の高校の新聞部は数十人くらいが所属しているようでしたが、自分たちの高校の新聞部の活動人数は5人程度しかいません。これは今後の大きな課題と言えるでしょう。また、フルカラーで冊子のような新聞もあり、自分たちがつくっている新聞がいかにも他県の高校新聞に劣っていたか、痛感させられました。

今回学んだことを活かして、学校新聞をより生徒に読んでもらえるようなものにしていきたいと思います。



「交流会で学んだこと」

2年 房川 周平

(名張市立北中学校)

全国高等学校総合文化祭の新聞部門に初めて参加させていただきました。全国から来た新聞部員と新聞を作るとき、最初は学校によって記事の書き方などが違って戸惑いましたが、他の学校での作文の仕方なども学ぶことができて良かったです。今まで私は自分の学校の新聞しか参考にして新聞を作っていなかったのですが、初日に他の学校の新聞の見本をもらった時に、一つも似ている学校がなくて得るものが多くありました。総文祭の記事を作成するときも、同じ班のメンバーにアドバイスをもらい、新聞を完成させることができました。私の班は時間配分を少し間違えてしまったため、題名や見出しなどに時間をかけることはできませんでしたが、自分が担当した記事は他の学校の新聞部員にも手伝ってもらったため、今まで以上のものを作ることができたと思います。最終日の新聞講評でも、他の班の作った新聞を見ることができ、色々学ぶことができました。

これからも学んだことを活かして、誰にも読んでもらえるような学校新聞を目指して、頑張って記事を作っていきたいと思います。このような貴重な機会をいただき、ありがとうございます。

硬式テニス部女子

部活動を通して学んだこと

2年 湯浅 葉月(三重大学教育学部附属中学校)

私は2022年4月30日、5月1日、3日に開催された、令和4年度全国・東海高等学校総合体育大会三重県予選兼三重県高等学校総合体育大会テニス競技の部女子シングルスで8位でした。また、6月4日、5日に行われた、2022東海中日ジュニア選手権大会三重県予選18歳以下女子シングルスで準優勝、女子ダブルスで3位となり、東海大会出場を決めました。また、9月18日に開催された令和4年度全国・東海選抜高校テニス大会三重県予選兼三重県高等学校新人大会テニス競技の部団体戦で7位になりました。

個人戦では、目標としていたベスト8に入ることができたので、とても嬉しかったです。東海大会では思うような結果が出せず、トップレベルの選手との力の差を身をもって感じました。今自分に何が足りなくて何が必要なかを明確にし、レベルアップしていきたいです。

団体戦では、なかなか結果を残すことが出来なかったのですが、今回結果を残すことが出来て良かったです。

これらの結果を残すことが出来たのは、たくさんの人の支えがあったからです。整った環境でテニスができることに感謝し、今後も頑張っていこうと思います。



陸上競技部

東海陸上競技大会に出場して

1年 田畑 馨（多気町松阪市学校組合立多気中学校）

第75回三重県高等学校陸上競技対校選手権 第3位(令和4年5月27日～29日)

第69回東海高等学校総合体育大会出場

第61回三重県高等学校新人陸上競技大会 第2位(令和4年9月18日)

東海高等学校新人陸上競技選手権大会出場

私たち陸上競技部は、短い時間の中でいかに集中し、質の高い練習ができるかを常に考えながら活動しています。そういった環境に身を置く中で、効率よく動くことで時間を生み出すことを心がけ、勉強と部活動を両立させています。部活動は人とのつながりを生み、視野を広げてくれます。さらに努力を肯定し、自らの成長を追い求める雰囲気の魅力であると考えています。取り組みを通じての努力や経験は、今しかできないとても価値があるものです。

今年私は、たくさんの仲間や先生方、応援して下さる方々のおかげもあり東海高校総体と東海高校新人出場という成績を残すことができました。そして今その舞台上で感じた課題を、自分の糧にできるように毎日真剣に練習に取り組んでいます。

私は、この先も部活動を通じてたくさんの人と出会い、経験を積み、人間として成長していきたいと考えています。今以上の結果をだして応援したいと思っただけの姿をお見せできるよう、これからも日々努力していきます。



水泳部

3年 立道愛和(名張市立南中学校出身)

令和4年度三重県高等学校選手権水泳競技大会 100m平泳ぎ 第1位

私は5歳から水泳を続けてきましたが、高校3年生は、最も充実したシーズンでした。

特に印象に残っているのが、三重県高校総体の4×100mメドレーリレーで優勝したことです。今まで、津高校女子のリレーの結果は、3位入賞もあまりしたことがありませんでしたがエントリーでは2番だったこともあり、表彰台に上がることを目標に、新しいチームでいどみました。3人目が泳ぎ終えた時点で1から3位が僅差の2位でした。そして、4泳のラスト25mで大逆転しそのまま逃げ切りました。リレーメンバーだけではなくチーム津高が1つになったことで、えられたこの優勝は個人で優勝したり全国大会に行くことよりも嬉しいものでした。

個人種目の結果としては全国大会に出場しただけで上位に入ることができず昨年のリベンジを果たせなくて悔しいものに終わりました。それでも、ここまでやり遂げられたのは水泳部の仲間のお陰です。クラブチームで主に練習しており部活動の練習にあまり参加できない私でも温かく迎えてくれる水泳部は、家族のような雰囲気です。私にとって高校生活を乗り越えるうえでなくてはならない存在でした。

勉強との両立は大変で辛いことの方が多かったですが、最高の仲間に出会えて津高校に入学してよかったです。



書道部

『第46回全国高等学校総合文化祭

東京大会に参加して』

3年 大内 弘美(津市立南が丘中学校)

第46回全国高等学校総合文化祭東京大会 書道部門出場(令和4年8月3日)

私は全国高等学校総合文化祭東京大会に三重県代表として初めて参加させていただきました。会場の東京都美術館には全国から選抜された300作品が展示されていました。同じ臨書作品でも文字の大きさやレイアウトなどによって書き手の個性が表れていると感じました。また、創作作品では様々な表現技法を用いて書が表されて見応えがありました。交流会では、10人で江戸文字を制作しました。普段は人と一緒に作品を作り上げる機会があまりなく、初対面の人との作業がうまくできるか不安がありました。班の人達との交流を通して楽しく作品づくりを終えることができました。

残りわずかとなった高校生活で、たくさんの全国トップレベルの作品をじっくりと堪能できたこと、全国の書道仲間と交流ができたことは私にとって忘れられない思い出となりました。特に新型コロナウイルスと常に隣り合わせの高校生活を送ってきたため、書道を通してたくさんの人達と関わることができたことはとても嬉しく、支えてくださった関係者の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。



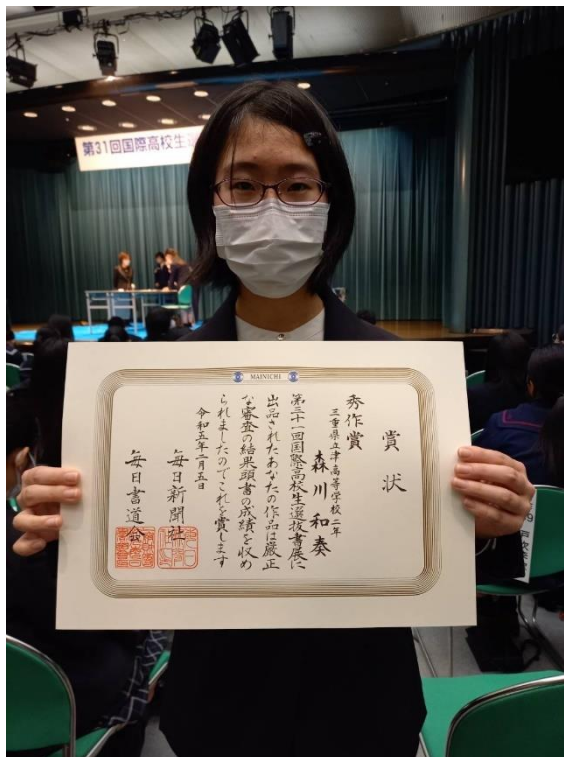
『第31回国際高校生選抜書展表彰式に参加して』

2年 森川 和奏(多気町松阪市学校組合立多気中学校)

今回、私は第31回国際高校生選抜書展(書の甲子園)で秀作賞を受賞し、また団体で地区優秀賞をいただいた津高校の代表として、3年ぶりに開催された表彰式に参加しました。会場には全国から受賞した高校生が集まり、厳かな雰囲気です。私自身、今回のような大きな表彰式には慣れておらず、どこか落ち着きがありませんでしたが、式に参加できた喜びと感謝の気持ちでいっぱいでした。

表彰式の中で印象に残っていることは、文部科学大臣賞を受賞した2名による席上揮毫と団体で全国優勝した高校による書道パフォーマンスです。揮毫をする方が筆を握ると一気に会場中に緊張が走り、皆筆使いを見ようととても集中していました。私もその筆使いに圧倒されながらも今後の作品制作時の良い参考になりました。

改めて、このような式に参加できたことを、とても光栄に思います。津高校としては地区優秀校に選ばれましたが、東海地区優勝を目標にこれからも書道部一同精進していきたいと思っています。私個人としても、今までの集大成として自分の納得いく作品を書けるように悔いの残らないよう努力していきます。



弓道部

東海弓道選抜大会出場

2年 大原 舞依(三重大学教育学部附属中学校)

私は、10月30日に行われた三重県高等学校弓道新人大会において第2位、
11月6日に行われた全国高等学校弓道選抜大会三重県予選弓道大会において第3位となり、
11月25日に行われた第41回東海高等学校弓道選抜大会に出場しました。

私は、高校生になってから弓道を始めました。弓道部に入ろうと思ったきっかけは、中学校の国語の授業で習った那須与一に憧れを持ったことです。最初は、弓道のことについてわからないことばかりで悩んだり、上手いかずにして落ち込んだりしました。ですが、先輩にアドバイスを頂いたり、指導をしてくださる弓道の先生が教えてくださったりして、力をつけることが出来ました。そして今回、大会という形で結果を出すことが出来ました。入部したときは、自分が大会を勝ち抜いて東海大会に出られると夢にも思っていなかったのでも嬉しかったです。あと数ヶ月で引退ですが、残りの大会に全力で挑むとともに、弓道部で過ごす日々を大切にしていきたいです。



将棋部

近畿大会に出場して

1年 新井嵩徳(津市立西橋内中学校)

私は、和歌山県で行われた全国高等学校総合文化祭近畿大会将棋部門個人戦A級に出場させていただきました。

この大会には県での予選を勝ち上がってきた方々が集っていて、そんな中、戦えるかどうかとても緊張していました。第一戦目はかなり激しい攻防でしたが、なんとか勝つことができ、そのときの達成感は今までの対局より大きく得ることができました。順調に勝ち進み、結果として3位に入賞することができました。この結果は、初めて出場した自分にとって大変嬉しく思います。しかし、一方で悔しさも残りました。準決勝で勝てなかったのは、日々の練習になにか足りないものがあつたのではないかと感じました。

私は、対局中に「これはもう厳しいなあ。」と思うことが多く、その気持ちが、自分を弱気にさせているのだと気づきました。そして、この気づきを次に活かしていこうと思いました。今回、この大会に出場できたことをまず誇りに思いたいです。また、大会に出場したことで、自分の力をしっかり発揮し、諦めないで戦うことの意味、大切さを改めて学ぶことができました。

今回の大会は自分をこれからの日々に繋げる良い経験になったと思います。今後の大会でも、自分の力を発揮できる場面があると思うので、最後まで、戦い抜き良い成績を残せるように頑張っていきたいです。

第42回近畿高等学校総合文化祭

将棋部門男子個人戦A級

第3位 令和4年 11月27日



<その他の大会成績>

令和4年 5月3日

第46回全国高等学校総合文化祭将棋部門

兼 第58回全国高等学校将棋選手権大会三重県予選

第4位

令和4年 8月7日

第42回近畿高等学校総合文化祭 将棋部門 三重県予選

兼 第30回三重県高等学校将棋大会

第3位

国際交流部

三重県高等学校英作文コンテスト

- 2年 吉木 美遥(名張市立名張中学校)
- 2年 西川 佳歩(松阪市立殿町中学校)
- 2年 藤原 陽菜(松阪市立久保中学校)
- 2年 別所 舞香(津市立久居東中学校)
- 2年 森岡 美和 (津市立橋北中学校)

第32回三重県高等学校英作文コンテスト 最優秀賞(令和4年10月8日)

私達は、英作文コンテストで最優秀賞を受賞しました。例年は津高校で開催されますが、今年は伊勢高等学校での開催となりました。各校4、5人ほどのグループで参加し、2時間でテーマに沿った英文を作成しました。

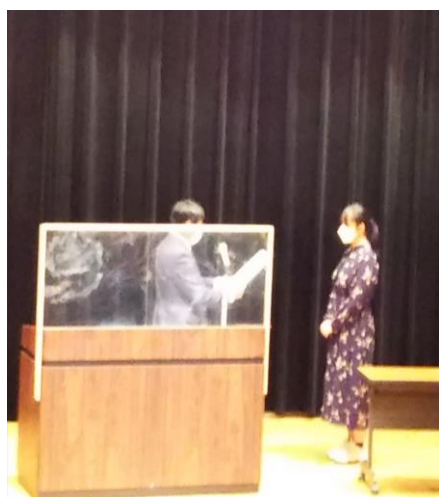
ここでは、英文を書く力に加え、内容点も加味されるため発想力や想像力が必要になります。与えられるテーマは毎年ユニークで「もし〇〇を1日貸し切れるならどう活用するか」「この物語の続きを想像してみよう」などがありました。

そのためチームワークを発揮できるよう、発想力でどんな解答が面白いアイデアを出す人、辞書を引いて適切な表現を見つける人、粗方の文章で下書きをする人、それを文法的にチェックしながら清書していく人、と各々の得意分野を活かせる分担にしました。

練習の段階でチームが得意としたのは「物語を創作する」ジャンルでした。今回は「ヘリコプターペアレンツをテーマに物語を創作する」ものだったため、強みをより活かすことができたと思います。

また、メンバーの緊張はほとんどありませんでした。ほどよくリラックスして取り組めたため楽しんで挑むことができ、受賞に繋がったのではないかと感じています。

新型コロナウイルスの影響で久しぶりの開催となった今回、このような賞をいただけて一同本当に嬉しかったですし、ご指導いただいた岡嶋先生、ジェシカ先生、キャロライン先生にはとても感謝しています。



吹奏楽部

【部員数】

1年生28人 2年生13人 3年生18人

【活動日】

月曜日～金曜日 放課後

土曜日(または日曜日)9:00～12:00

【大会結果】

◇令和4年度三重県吹奏楽コンクールB編成(8月6日) 金賞

◇令和4年度 第55回三重県アンサンブルコンテストA部門(1月8日)
木管八重奏 銀賞 地区代表 打楽器五重奏 金賞 地区代表
金管六重奏 銀賞(録音審査)

◇令和4年度 第55回三重県アンサンブルコンテスト(1月14日)
木管八重奏 銀賞 打楽器五重奏 金賞



こんにちは！私たち吹奏楽部は毎日仲良く練習に励み、学生指揮でコンクールに出場したり様々な行事を生徒主体で進めています。数年前から新型コロナウイルス感染拡大の影響で大会・行事の中止や、無観客での開催に見舞われていましたが、本年度は有観客での大会の実施や文化祭での演奏を二日間行えるなど、保護者の方々、生徒のみなさんや先生方にも自分たちの演奏を聴いていただける機会が戻りつつあったように感じます。久しぶりの行事の練習や運営に悩み苦戦することもありましたが、本番では観客の皆様楽しんで頂き、時には感想までいただき、頑張っよかったと思えるとても大切な機会になりました。来年度以降はもっと沢山の方に聴きにきて頂けるようさらに精進していきたいです。

また数度の大会においても、部員一人一人が練習に励み多くの結果を残すことができました。津高校吹奏楽部は先生の指導者ではなく、主に学生指揮や副指揮、そして自分たちで意見を出し合いながら練習を進めていきます。その中で正解が分からなくなったり、意見がすれ違うこともありますが、部員たちで話し合ったり、吹奏楽部の卒業生の方々に力を貸していただきながら大会に挑んできました。嬉しい結果も悔しい結果も味わいましたが、たくさんの練習が本番の演奏や賞として形になったことで達成感や喜びを感じました。

この一年間の活動を通してたくさんの方々にお世話になりました。感謝の気持ちを忘れずにこれからも目標に向かって活動していきたいと思えます。また、大会ではより良い結果を残せるよう、そして演奏会はこれからまた再開されていく行事もあるので部員一同より一層頑張っていきます。

美術部

みえ高文祭美術・工芸部門

2年 楠 れいか（三重大学教育学部附属中学校）

みえ高文祭美術・工芸部門 生徒特別賞

この作品は、外側から見ると鯨は綺麗だが口の中には汚いゴミが大量に入っていて、それが本当の苦しみや醜さは覗いてみないとわからないということを表しているのだという、友人との話を思案しながら形にしたものです。

今回は最初から作るものが決まっていたので、理解を深めるために鯨について色々な事を調べました。その中で、カツオクジラが、海洋汚染の結果、海面近くにしか餌となる魚がいなくなり、その結果立ち泳ぎで食事をするようになったということを知りました。実際のその動画の中の鯨は苦しそうに見え、そこから、海面にしか食べるものがなく、ようやく餌があったと思って食べたらそれもゴミ、鯨は人間が海へと流した不幸を口の中に入れて飲み込もうとしているのに、人間はそんなことも知らず鯨の姿を見て美しいと思っている、近づいて見た人だけが気づける、そんな鯨の苦しみを、わかりやすく形にしようと考えました。

ダンボールという使い慣れない難しい素材で、試行錯誤もありましたが、完成してみて自分の頭の中にあったものがうまく形になったと感じています。

作品にご指摘いただいた先生方や、投票をしていただいたり感想をくださった生徒の皆さんに感謝し、今後の作品をより良いものにしていけたらと思います。



SSC(スーパーサイエンスクラブ)活動報告

2年 二瓶 詩音(松阪市立殿町中学校)

津高校SSC(スーパーサイエンスクラブ)では、数学・物理・化学・生物・地学の五部会に分かれて様々な活動を行っています。活動内容は部会ごとに異なり、以下の写真とともにそれぞれを紹介します。



【数学部会】

数学オリンピックや大学のサークルが作った問題などを解き、数学への知見を深めています。

【物理部会】

プログラミングなどコンピュータにかかわることや、3Dプリンターを用いた様々な制作を主にしています。



【化学部会】

様々な実験を行ったり、化学グランプリに参加したりしています。又、松阪高校や上野高校との交流会などを行っています。

【生物部会】

メダカやザリガニなどの生き物の飼育及び観察を行っています。

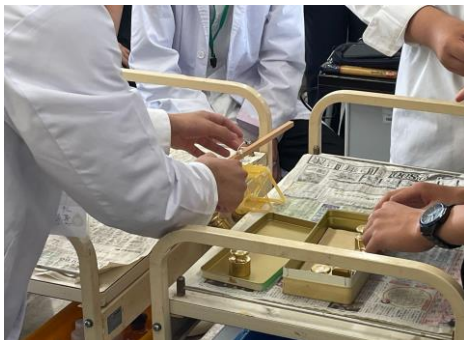
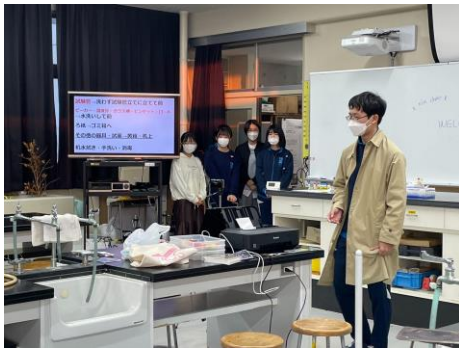




【地学部会】

望遠鏡を用いた惑星などの多種多様な天体の観測。地質調査などを行っています。

これらにとどまらず、私たちは様々な場で部会の垣根を越えて活動することも多く、今年にはホーチミン師範大学との交流(左下)を行ったり、堀川高校などとの協力のもと探究道場(右下)を開催したりしました。



第68回青少年読書感想文コンクール

第68回読書感想文コンクール

<津地区審査>

◆特選

2年 藤原 陽菜

2年 生田 初

◆入選

2年 山田 明香里

2年 田中 和花

2年 草深 遼加

1年 柴田 晴希

<三重県審査>

◆最優秀賞

2年 藤原 陽菜(松阪市立久保中学校)

「私のフィルターと働くことの意味」



◆優良賞

2年 生田 初(名張市立桔梗が丘中学校)

「だれかの心に響く音」



第34回読書感想画コンクール三重県審査

最優秀賞【指定図書部門】 1年 深澤 恵芽(津市立久居中学校)
「強さ」 森川成美「はなの街オペラ」を読んで



歌に生きるはなの強い生き方に感動し、「この生き様を他の人にも見せたい」という思いで描きました。特に愛する夫に置いていかれた蝶々さんと、はなをオペラの世界に引き入れた響之介に置いていかれる自分とを重る場面の心情表現が心に残ったので「蝶々婦人」の一場面を中心に描きました。この本の世界観を表すためにアニメのようなタッチで描き、背景や遠い感じを出すのは難しく、苦心しました。

最優秀賞【自由図書部門】 2年 田中 和花(津市立橋北中学校)
「以蔵」 司馬遼太郎「人斬りを読んで」



多くの佐幕派を暗殺し、幕末の京都を震撼させた岡田以蔵について、私はどこことなく血も涙もないような殺人鬼をイメージしていた。しかし、この本では彼はその類い稀な才能を周囲の人々に利用され暗殺者に仕立て上げられた挙句、悲劇的な最期を迎えた人物として描かれており、それまでの概念が覆された。今回の感想画では彼を一人の人間として描きたいと考え、黒で塗るはずだった背景は様々な色を混ぜ合わせたものに変更した。

優秀賞 【指定図書部門】 1年 甲斐 愛菜(津市立橋南中学校)
「君は蛍なんだ」 川邊徹「蛍と月の真ん中で」を読んで



優良賞 【指定図書部門】 1年 牛尾 華萌(名張市立南中学校)
「火星の窓」 スザンヌ・スレード「火星は・・・」を読んで



努力賞【指定図書部門】
「期待と不安」

2年 能島 咲弥(鈴鹿市立白子中学校)
スザンヌ・スレード「火星は・・・」を読んで



努力賞【自由図書部門】
「求めない」

1年 中川 千江(鈴鹿市立白子中学校)
加島祥造「求めない」を読んで

